

厚生労働科学研究費補助金（エイズ対策研究事業）

「HIV感染症の曝露前及び曝露後の予防投薬の提供体制に関する研究」

平成30年度 分担研究報告書

【研究分担課題名】日本在住MSMのPrEP（曝露前予防）に関する意識や行動に関する研究

研究分担者：生島 嗣（特定非営利活動法人ぶれいす東京・代表）

研究協力者：山口正純（武南病院、ぶれいす東京）、三輪岳史（ぶれいす東京）

研究要旨

研究要旨：わが国のMSMにおけるPrEPに関する認知度、ニーズを調査するため、MSM向けインターネットサイトを介して大規模調査を実施する。また国内のMSMに訴求性の高いPrEP啓発資材を参考として調査収集する。また利用者が受け入れ可能な費用負担額を調べることで、わが国でPrEPを導入した場合の費用対効果の分析に資する知見を得る。

A．研究目的

本分担研究では、日本のMSMコミュニティを対象としたPrEPの認知度、利用意向性、課題等に関する意識調査を実施し、日本のMSMコミュニティでPrEPプログラムを導入するにあたり必要となる医療サービスの提供体制や、医療・カウンセリング等の提供に必要な人的資源、コミュニティに訴求性の高い啓発資材等に関するニーズを明らかにすることを目的とする。

B．研究方法

本研究では、文献調査で得た情報を参考に作成した質問紙を用い、MSMを対象とした無記名自記式アンケート調査を行った。アンケート調査は、MSM向けのGPS機能付き出会い系アプリの利用者を対象として実施した。

C．研究結果

回答開始者は6,467人、最後まで回答した者は5,048人だった。PrEPの薬が日本で入手可能になったら使いたい、という質問に対して、「とても使いたい」あるいは「まあ使いたい」と回答している人は67.2%（3430/5106）であり、22.4%（1145/5106）は「わからない」と回答した。日本でもPrEPを導入するべきだと思うか、という質問に対して、「とてもそう思う」あるいは「まあそう思う」と回答している人は85.6%（4370/5108）、「わからない」と回答している人は10.9%（559/5108）であった。HIV感染予防のためにPrEPの薬を服用した場合のコンドーム使用への影響について、

「今より使わなくなると思う」と回答している人が最も多く、45.0%（2298/5105）であった。PrEPを知っている人のうち、「過去に飲んだことがある」あるいは「現在飲んでいる」人は8.9%（183/2054）いた。入手方法としては、「インターネットで購入」の42.5%（77/181）と「国内の医療機関」の42.0%（76/181）が並んで多かった。PrEP使用者の30.2%（52/172）は医師の診察を全く受けていない/いなかった。8.72%（15/172）は受けたいが場所が見つからない/わからないと回答している。

D．考察

PrEPの使用意思に関して、6割以上が使いたいと感じており、8割以上が日本でもPrEPを導入すべきと思っていることが明らかになった。また、PrEP使用者の内、約3割は医師の診察を受けておらず、約9%は受けたいが場所が見つからないと回答しており、国内のPrEPの環境整備が必要であることが示唆された。

E．結論

わが国のMSMコミュニティを対象としたニーズ調査を実施することは、PrEPの実現可能性、利用可能性、費用負担可能性等を検討するために極めて重要であり、今後PrEPプログラムの日本導入を検討するために必要不可欠である。

G．研究発表、H．知的財産権の出願・登録状況なし